

第27章 地域編③：南部

1. 南部の概要

(1) 南部の特徴

南部地域は、1990年代以降のベトナム投資ブーム期から2000年まで、海外からの直接投資のほとんどを受け入れてきた。その要因として、整備されたインフラ基盤があったことが挙げられる。南部地域は1990年頃より工業団地や輸出加工区を開発し、外国投資家が進出しやすい環境を用意してきた。

南部は、特に、ベトナム戦争中、米国による道路インフラや電力インフラの整備が行われ、産業インフラの基盤が既に構築されていた。更に、1976年のベトナム統一以前より資本主義体制であったことから、ホテル、レストラン、流通業などのサービス業も充実しており、市場経済を受け入れる事業環境が北部よりも整備されていたと言える。

2022年までの外国直接投資流入額（累積ベース）を見ても、南部への投資が約4割以上を占めている。また、WTO加盟によりサービス業の外資規制緩和が進み、経済活動が活発なホーチミンを中心に内需を狙ったサービス業による投資も増加している。

南部地域では、ホーチミンを中心に所得水準が高いため、消費意欲が強く、市場としての魅力もある。多くの日本企業が同地域に投資を実施しているが、北部と比較すると土地、労働賃金などが高騰し、コスト面での競争力が失われつつある。このためホーチミン市の周辺省であるドンナイ省、テイニン省などで開発が急速に進んでいる。従来、投資対象地域はホーチミンから車で1時間程度の範囲までであったが、投資拡大とともに、近年では、1時間半～2時間程度の範囲まで広がっている。また、南部主要経済圏（ホーチミン市、テイニン省、ドンナイ省）をつなぐ環状道路3号線の整備が2025年の竣工、2026年から運用開始を目標に進められている。

図表 27-1 南部の主要都市の概要

	ホーチミン市	ドンナイ省	テイニン省
面積	6,773 km ²	12,738 km ²	8,537 km ²
人口	1,370 万人（2025 年）	432 万人（2025 年）	296 万人（2025 年）
外国直接投資認可額	589 億ドル（2024 年 12 月までの累計）※	375 億ドル（2024 年 12 月までの累計）※	101 億ドル（2024 年 12 月までの累計）※
主要産業	伝統的には製造業。縫製業、履物業、建設業、食品加工業などで急成長する民間企業もある。近年はサービス業も多い。	伝統的には農業、食品加工、縫製、革製品（靴など）製造などの軽工業品製造など。最近では、外資系企業の増加に伴い、化学工業、電気・電子なども盛んである。	農業・農産物加工業、繊維業、建築資材生産など。今後、循環型経済の発展も期待される。

（出所）各省市ウェブサイトなどより作成

※外国直接投資認可額は2024年までのデータのため、改編前の省で計算している。

(2) ホーチミン市

ホーチミンは、ベトナム最大の商工業都市であるだけでなく、都市ベースで最大の人口 1,370 万人（2025 年）を擁し、かつ、ベトナムの中で最も経済基盤が整備されてきた都市である。立地や整備されたインフラなどを背景に日系企業の約 6 割がホーチミン近郊に進出しており、海外投資家からの人気も高い。2022 年のホーチミン市の 1 人あたり月収は約 639 万ドンと、他地域と比較して既に一段階高い水準にある。所得水準の高さから、ホーチミンは消費市場としての魅力が今後も一層高まると期待される一方、労賃上昇、労働力不足、進出余地（土地）の供給不足も顕在化しており、コスト高になりつつある点が懸念されている。なお、2025 年の省庁改編により、旧ビンズン省や旧バリア・ブンタウ省が吸収され、旧バリア・ブンタウ省とは直接的に接続していないが、そちらに豊富に貯蔵されている海底石油などを利用し天然資源開発も進むことが想定されている。また南部には主要港であるカイメップ・チーバイ国際港がある。



市内を流れるサイゴン川



ホーチミン市民劇場（オペラハウス）

(3) ドンナイ省

ドンナイ省は、ホーチミン市の東側に位置し、省都のビエンホアはホーチミン市内から 30 km、約 1 時間半圏内に位置する。国道 1 号線など主要な幹線道路が複数通っており、ビエンホアからホーチミン市のブンタウを結ぶ高速道路の建設計画（2023 年 6 月着工、2025 年年末まで完工予定）や、ロンタイン国際空港の新設プロジェクトも進められており、2021 年には第 1 期建設が着工した（2026 年完成予定）。主要地区はホーチミン市と同じレベル 1 の最低賃金が設定されているが、比較的安い労働力が確保可能な上、工業団地も広く進出余地が大きいなどの魅力があり、ベトナム国内で日系企業からの投資が多く流入している。

労働者向けの住宅サービスや、投資進出支援体制としてワンストップサービスセンターも設置されている。また、ドンナイ省工業団地管理局では、日本語相談窓口として近畿経済産業局との連携の下、関西デスク及びコーディネーター組織が設置されており、日本語でのサービスが可能となっている。更に、内陸に立地することから、台風などの自然災害リスクが低い点も魅力の一つである。

(4) テイニン省

テイニン省はホーチミン市の西に隣接しているため、メコンデルタ地域とホーチミン市をつなぐ要衝となっている。メコンデルタ地方へと延びる高速道路が 2009 年に開通し、その沿線やホーチミンに近いエリアに工業団地が多く開発されている。西と北側はカンボジアに接しており、国境には経済区が設置されている。また、同省には広大な平野があり、農業も盛んである。

(5) その他

近年、主要都市部の地価や労働賃金の上昇、従業員の募集が困難になってきた点などを受け、南部地域の地方部への進出が注目されている。

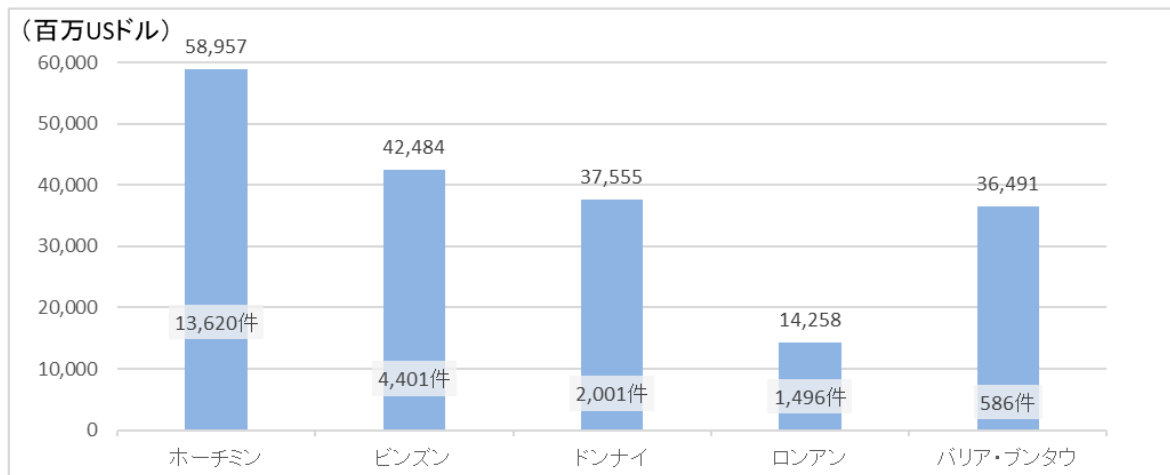
その中でも人口の多いメコンデルタ地域の最大都市であるカントーが注目を浴びている。カントーは以前ホーチミンなどへは陸路のみでは到達できなかった。しかし、橋梁の整備などにより、現在では車での往来が可能となっている。ホーチミンからの所要時間は 3 時間程度であるが、南北高速道路のホーチミンーミートゥアン（ヴィンロン省）間が開通しており、ミートゥアンーカントー市間の建設が 2025 年（予定）に完工すればホーチミンーカントー間は 2 時間で移動できることとなる。また、カントー国際空港もあり、日本との直行便は運航していないが、国際線が開設されている。2018 年には、日越外交関係樹立 45 周年を記念して、市内の工業団地内に「日越友好工業団地」が設置された。

また、市の投資促進センター傘下に「ジャパンデスク・カントー」を設置しており、東京と大阪にも「カントー市ジャパンデスク東京事務所」を開設している。なお、キエンザン省にはベトナム南西端の沖 40km の位置にフーコック島があり、伝統的な漁業・加工品製造（ヌックマム）に加え、近年ではリゾート開発や工業団地開発などが盛んに行われている。

2. 外国直接投資受入状況

2024 年 12 月までのホーチミンへの投資は、累計で 13,620 件、589 億ドルであった。旧バリア・ブンタウ省は 586 件で 364 億ドル、旧ビンズン省が 4,401 件で 424 億ドル、旧ドンナイ省は 2,001 件で 375 億ドルであった。

図表 27-2 南部の外国直接投資受入状況（2024 年 12 月 31 日までの累計）



（出所）ベトナム統計総局より作成 （※2024 年のデータのため、改編前の省で集計している）

ホーチミンへの投資の特徴は、ベトナム全体での FDI と同様、①製造業では大規模な進出が一巡して中小企業の投資が増えてきていること、②製造業以外ではサービス業の進出が大幅に増加していることが挙げられる。

3. 日系企業の動向

（1）直接投資流入の推移

ホーチミン日本商工会には、2025 年 5 月時点で 1,074 社が入会している（ハノイのベトナム日本商工会は 2025 年 5 月時点で 818 社が入会している）。進出時期では、2010～2015 と 2015～2020 の 5 年間でそれぞれ 250 社以上増えているが、2020 年から現在に至るまでの 5 年近くでは 80 社弱しか増えていない。

（省改編前の）ビンズン省には日本から 339 件、約 59 億ドルの投資がされており（2021 年 12 月時点）、主な投資分野はインフラ整備・都市開発、電子部品、集積回路・マイクロチップ、自動車である。電機・電子では、パナソニック、富士通、東芝が工場を操業するなど、日本でも有数の大手電機メーカーが進出している。また、このような大手組立メーカーの進出に伴い、電機・電子部品メーカーの進出も進んだ。ホーチミン市周辺では、（省改編前の）ロンアン省において、ホーチミン日本商工会のロンアン部会への加盟は 20 社（2022 年 3 月時点）であるが、実際には電機・電子部品分野の日系企業が進出している模様である。なお、ビンズン部会には同時点で 135 社の日本企業が在籍している。

エースコック、味の素、久光製薬などは 1990 年代より南部地域に進出し、ベトナムの消費市場を取り込んでいる。2010 年以降も、コイケヤ、日本ハム、日東ベストなどの食品加工企業の多くは南部に進出している。更に、南部地域ではサービス業や不動産分野への投資も増加している。例えば、2011 年と 2014 年にはイオンベトナムがそれぞれ 1 億ドル超の投資認可を受けており、2016 年までにイオンモールタンフーセラドン（ホーチミン市）、イオンモールビンズンキャナリー（旧ビンズン省）、イオンモールビンタン（ホーチミン市）をオープンしている。また、東急電鉄

は2012年からビンズン新都市（総面積約1,000ha）において、「東急ガーデンシティ」プロジェクトを推進しており、2024年の12月に5街区目の住宅が竣工され、ほかにも商業施設4施設の開発、学校・医療機関の誘致、路線バスの運行など都市開発を実施している。今後も（改編前の）ビンズン省として初のメトロ計画を進めており、トゥーザウモット市とホーチミン市のメトロ1号線「スオイティエン駅」を結ぶ全長32.4kmの路線を、2027年に着工、2031年の完成を目指して計画しており、総事業費は約25億2,000万ドルとなる予定である。

製造業の大型投資では、2012年にLIXILのアルミ工場（旧ドンナイ省、4.4億ドル、2013年稼働）、2013年には丸善食品の飲料工場（旧ビンズン省、1.1億ドル、2014年にMARUZEN FOODS VIETNAM CO., LTD. 設立）、2014年にはSMC（1.1億ドル、2014年9月SMC マニユファクチュアリング ベトナム設立）などが認可されている。2015年11月には、ニトリホールディングスが（省改編前の）バリア・ブンタウ省にて投資ライセンスを取得し、同省内のフーミー3工業団地で、2017年に工場が竣工している。2023年には（改編前の）ロンアン省において、サントリーがベトナム現地で買収したサントリーペプシコ社が1億8,500万ドルの新規投資認可を取得し、（省改編前の）ドンナイ省においては日本の自動制御機器メーカーのSMCが1億2,000万ドルの新規投資認可を取得している。また、2024年には、大手総合化学メーカーである東ソーが（省改編前の）バリア・ブンタウ省において、1億7,600万ドルの投資認可を取得している。南部地域では部品メーカーの集積も進みつつある。ベトナムやタイなど東南アジアに先行して進出している取引先を追う形や、もしくは同時に進出する部品メーカーが多く、部品メーカーの集積により現地調達率が向上し、一段のコスト削減が期待される。

エネルギー分野に関して、新電力のイーレックスは、ベトナムでのバイオマス発電所の設置やバイオマス燃料「ニューソルガム」の開発を計画しており、バイオマス燃料のベトナムにおける地産地消の生産量を2030年時点で500万トンとするというビジョンを示している。2021年には、このバイオマス燃料のニューソルガムのテスト栽培をテイニン省（省改編前のロンアン省とテイニン省）など南部の省で行っており（同社ウェブサイトより）、また、2025年4月25日よりベトナム南部ハウザン省でベトナム初の商用バイオマス発電所の竣工式を開催し、稼働し始めた。

(2) 南部進出企業のベトナム戦略（ベトナム拠点の位置付け）

2011年以降に実施した現地ヒアリング（省改編前のホーチミン市、ドンナイ省、ビンズン省、ロンアン省にて実施）をもとに南部への進出背景を整理すると、①総じてインフラが整備されている、②納入先や調達先に近接している、③消費市場としての潜在性が高い、④住環境が良い、の4点にまとめられる。

ホーチミン市は1990年代より工業団地が整備され、日系企業の進出も同時期から進んでいる。特に、ホーチミン市やその周辺に進出する輸出加工型の企業は、港湾までの距離や周辺国などへのアクセスなど物流条件を考慮して進出している。また、進出企業の中には、季節による寒暖の差が小さく安定した気候の方が作業工程上好ましいという理由を挙げる企業もあった。また、ホーチミン市は住環境が整っており、通勤可能な距離に工業団地が立地することもホーチミン市やその周辺地域に投資が集まる大きな要因となっている。

ベトナム国内販売を意識・目的とした日本企業の進出は、南部の方に多い傾向がある。9,000万人を超える人口のうち、2割に相当する約1,600万人がホーチミン市及びその周辺省に居住してい

る。また、ホーチミン市、(省改編前の)ビンズン省の1人あたり GRDP は 6,000 ドルを超え、(省改編前の)ドンナイ省も 4,000 ドルを上回っている。耐久消費財を購入しはじめる 3,000 ドルの水準を既に大きく超えているなど、消費市場としての潜在性も高いと言える。

4. 主要工業団地

ベトナム南部には、工業団地、輸出加工区、ハイテクパークが、日系企業からの投資が多いホーチミン市、ドンナイ省、テイニン省に集中している。南部の工業団地の立地の特徴は、ホーチミンから東西に延びる国道 1 号線沿線、あるいはホーチミンから北に延びる国道 13 号線沿線、またはドンナイ省から(省改編前の)バリア・ブンタウ省に続く国道 51 号線沿線に多くの工業団地が建設されていることである。代表的な工業団地として、(省改編前の)ビンズン省の VSIP (1 期～3 期)、ドンナイ省のアマタ工業団地、ニョンチャック工業団地、(省改編前の)ロンアン省のロンハウ工業団地などが挙げられる。

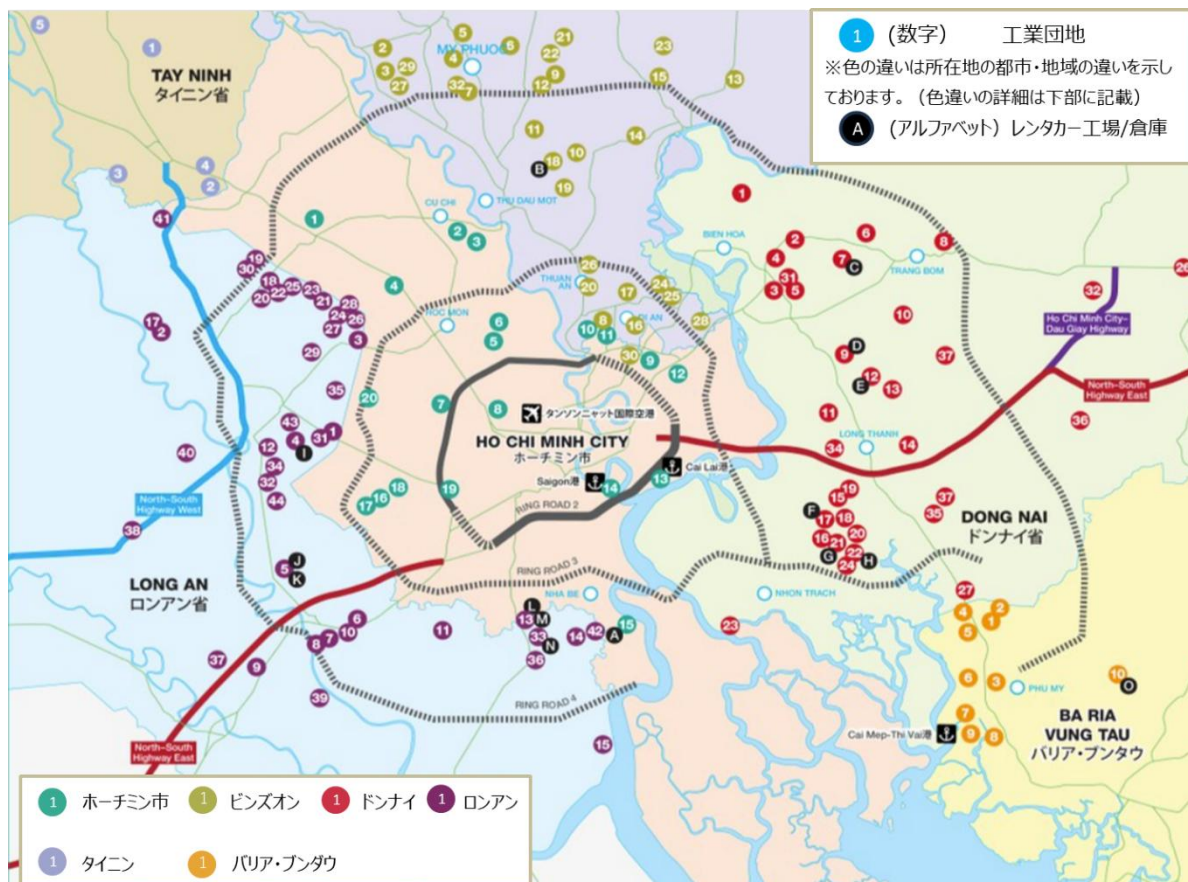
なお、ホーチミン市の工業団地は空きスペースが十分でなく、残されている土地も限られ開発余地も残されていないことから、郊外での工業団地造成が進められている。その中には日系企業が開発を手掛ける工業団地もある。

例えば、アマタ工業団地は伊藤忠商事がアマタコーポレーションに出資している工業団地である。(省改編前の)ドンナイ省のロテコ工業団地は、1996 年に双日と地場企業とで開発が行われ、レンタル工場サービスも提供している日本企業が参画する工業団地として、ロンドウック工業団地(双日、大和ハウス工業、神鋼環境ソリューション)や、VSIP (シンガポール系、三菱商事が間接出資)などが挙げられる。これらの日系工業団地は、土地リース料などは地場企業が開発する工業団地と比較して高いものの、日本人スタッフによるサポートやインフラ整備の質の面で安心できる。

また、最近はレンタル工場も増加している。初期投資コストを抑制したい中堅・中小企業は、レンタル工場に入居するのも一手である。工業団地によって 100 m²、500 m² など比較的小さなスペースから工場サイズを揃え、建屋と電気などの設備が予め配備され、入居企業は内装工事や生産設備の搬入だけで事業を開始できる。

さらには、自らも工具の製造企業であるユニカホールディングス(株)のグループ会社が運営する日系中小企業専用工業団地、VIE-PAN TECHNO PARK (VPTP、ホーチミン市)のように、人材の採用、通関手続、経理、環境報告の作成、駐在員の就労許可などの事務をサポートするマネージメント機能を備えるレンタル工場も存在する。レンタル工場の活用に関しては、生産規模が小さい初期段階ではレンタル工場に進出し、その後、生産体制を拡大するために郊外の工業団地に自社工場を建設、移転する事例も見受けられる。また、移転に際し、既存のワーカーやスタッフが引き続き通勤できるかどうかという点も重要視される。

図表 27-3 南部の主要工業団地



(出所) Invest Asia Vol. 19 Japan Edition (Sufex Trading) から抜粋 (2025 年 3 月時点のため、改編前の省市で集計)

※詳細の団地名は一部「10. 主要工業団地」にて記載しております。

5. 投資申請・相談窓口

ベトナム南部に進出する際は、北部、中部と同様に、従来は各省市の人民委員会計画投資局 (DPI) あるいは工業団地管理公社で投資証明書の取得手続きを行っていたが、2025 年の行政機関再編により計画投資局と財政局が統合され、統合後には財政局 (DOF) の所管下になる予定である。ホーチミン市の場合は、ホーチミン市財政局 (Department of Finance of Ho Chi Minh City : HCMC DOF)、ホーチミン市輸出加工区工業団地管理委員会 (Ho Chi Minh City Export Processing And Industrial Zones Authority : HEPZA)、ホーチミン市ハイテク区管理委員会 (Management Board of Saigon Hi-Tech Park) で手続きを行える。

また、DOF (旧計画投資局 DPI) ではホーチミン市の工業団地に進出を希望する企業の事務手続きが迅速に行えるよう、ワンストップサービスを提供し、最近ではインターネットによる申請が可能となるなど、手続きの簡素化を進めている。また、日系工業団地では、日本人駐在員が常駐し、進出企業に各種サポートを提供している。

6. インフラ

(1) 港湾

サイゴン港はベトナム国内最大級の港であり、サイゴン川沿いにいくつもの港湾が並ぶ港湾群でもある。貨物やコンテナの取扱量は非常に多いが、いずれも河川港であるため、3 万トン級の船しか入港できない。コンテナ化などの整備を進めているが、港がホーチミン市内から 10 分程度と近接しているため交通渋滞の原因ともなっており、大型車両の交通規制が導入されるなど、物流に課題を抱える。地域経済の成長に伴う港湾貨物の増加に対応するため、ベトナム初の国際ゲートウェイを目指し、ホーチミン市の南東に位置するバリア・ブンタウ省のカイメップ・チーバイ港が日本政府の ODA や民間資金で整備されている。

既に最大水深 14m 級のコンテナターミナルが 4 ヶ所完成しており、更に複数のプロジェクトが進行中である。将来的にはカイメップ・チーバイ港内に計 14 港が開港予定である。

南部からの海運の所要日数については、日本までは約 1 週間（ダイレクトベース）を要する。ただし、多くの場合は、複数の寄港地を経由してベトナムに入港するため、寄港地などにより輸送期間は異なる。ASEAN 便については、ASEAN 域内であれば、輸送期間は通常 2～5 日である。なお、ホーチミンからタイ、シンガポールまでは 2～3 日、マレーシア・ペナン島までは 4 日程度かかる。この他、米国西海岸まで 3 週間、東海岸までは 1 ヶ月程度要する。

(2) 空港

ホーチミンのタンソンニャット国際空港はホーチミン市内から北西約 8 km に位置する。国際航空需要の増加を受けて、日本政府の ODA により新ターミナルが建設され、2007 年 9 月から供用されている。2022 年 1 月～6 月のタンソンニャット国際空港の利用者数は 4,070 万人に達し、2022 年の年間旅客数は前年比 2.9 倍の約 8,780 万人に達すると予想されている。同空港は過負荷状態のため拡張が予定されているが、土地収用などで計画に遅れが生じている。年間旅客処理能力を増やすため、2022 年 12 月には第 3 ターミナルの建設プロジェクトが着工し、2025 年 4 月には開業されることとなった。2025 年 5 月時点で、日本からホーチミンへの直行便は、羽田、成田、関西国際空港から毎日運行しており、名古屋と福岡からも週 2 便以上運航している。

また、タンソンニャット国際空港の大幅な需要超過を受けて、国道 51 号線沿いに新たな国際空港としてロンタイン国際空港の建設が計画されている。ロンタイン国際空港は、4,000 m の滑走路 4 本を備え、現在のタンソンニャット国際空港の 4 倍の規模となる計画であり、2021 年 1 月に建設第 1 期が着工している。建設プロジェクトは第 1 期から第 3 期の 3 段階となっており、完成予定は 2025 年年末となっている。

(3) 道路

ホーチミンでは渋滞が頻発しており、道路事情は良いとは言えない。渋滞緩和を目指し、2011 年 11 月にホーチミンを東西に走り 1 区と 2 区を結ぶ東西ハイウェイが日本政府の ODA により完成した。この東西ハイウェイに合わせて、ホーチミン市内を流れるサイゴン川の下を通行するトゥーティエムトンネルも建設された。東西ハイウェイは市内を横断する全長 22km の高速道路

で、ホーチミン市の南西部と東北部でそれぞれ国道 1 号線に接続しており、市内中心部に流入する車両の数を減少させることにより、渋滞緩和に貢献している。

ホーチミン、ドンナイ、ロンアン、ビンズンを結ぶ環状 3 号線、環状 4 号線の開発計画があるものの、用地取得や材料供給のため着工が遅れている。2025 年 3 月時点で、環状 3 号線は 2025 年 4 月に、ドンナイ省へとつながるニョンチャック橋が開通し、6 月にこの区間を車で通行可能となる。

内陸に位置するビンズン地域（省改編前のビンズン省）は港湾整備の必要がないため、道路整備に注力している。同地域は、沿線で工業団地の開発が進められる国道 13 号線を片側 3 車線に拡張し、ミーフッカータンバン間の環状道路の整備も実施したことにより、港湾へ貨物を運ぶ際にホーチミン市内の渋滞や交通規制に留意する必要がなくなった。

(4) 南部回廊

南部経済回廊（アジアハイウェイ 1 号線）は、ベトナムのブンタウからホーチミン、カンボジアのプノンペン、タイのバンコク、ミャンマーのダウエーまでを結ぶ計画である。ホーチミンープノンペン間の距離は約 250 km で移動時間は 6 時間程度を要する。全線が高速道路化すれば、約 2.5 時間に移動時間が短縮される見通しである。

(5) 鉄道

南北を縦断する南北統一鉄道は 1,726 km 全線が単線であるため、ホーチミンーハノイ間は約 30 時間を要する。1 日 5 便運行されているが、傷んだ線路や橋梁の復旧工事が行われているため、途中停車が多い。旅客と貨物を一緒に輸送するため旅客が優先される上、貨物をハンドリングする鉄道駅の運営レベルが低いことや、貨物のトレースができないなど改善点が多い。また、現地調査では、鉄道輸送は積荷の積み替え作業が多く、荷物が傷む可能性があるため、利用していないとの声も聞かれた。ただし、輸送コストが安いと、重く嵩張る貨物について鉄道を利用する日系企業もある。

2021 年 10 月、ファム・ミン・チン首相は、中長期的な鉄道システムの整備計画案である「2021～30 年の鉄道網整備計画及び 2050 年までの展望」を承認した。その後、2024 年 11 月に国会で承認され、総事業費は 670 億ドルとなるとされている。

(6) 交通

ホーチミン市では非常に多くのバイクが走っている。逆走や歩道の走行なども見られ、交通渋滞の原因の一つとなっている。市政府は交通渋滞緩和のため、ホーチミン市内の交通量の多い大通りにおいて、2.5 トン超のトラックに対し 6～22 時の時間帯で通行規制を導入している。更に、2.5 トン以下のトラックに対しても、交通量のピークである 6～9 時及び 16～22 時の時間帯で通行を規制している。このような交通事情を背景に、ホーチミン市では高速道路の整備や地下鉄網の建設による渋滞緩和を目指している。

合計で 8 線の地下鉄路線の建設が計画されており、うち地下鉄 1 号線の建設は日本政府の ODA

により進められ2018年営業開始とする当初の目標から遅延しているが、2024年12月に開業した。ホーチミン市中心部の都心部は地下を通り、それ以外の区間は高架となっている。

ホーチミン市都市鉄道2号線（ベントイン-タムルオン）は、同市中心部の1区ベントインから、北西に位置する12区タムルオンを結ぶ計画で、路線は全長11キロ余り（うち地下区間9.2キロ）で、10駅（地下駅9、高架駅1）で構成される。当初は2026年完成の予定だったが、計画の遅延によって2030年に完成予定となっている。

（7）電力

ホーチミン市周辺地域では、気候などの影響を受ける水力発電などへの依存度が低く、火力発電の比率が高いため、電力事情は比較的良好である。ただし、2010年の渇水による電力不足の際には、政府関係施設が集中する北部に優先的に電力が配分されたため、南部で停電が頻発したとの不満の声が聞かれた。

場所によっては瞬間停電が発生しているようだ。停電は以前に比べればかなり頻度は少なくなっている模様だが、ホーチミン市よりも周辺省の方が停電は多いようである。停電の主な原因は、蛇や鳥による断線から工事ミス、クレーン車による断線など多岐にわたる。停電が発生すると生産中の製品が不良品となるが、電力会社からの補償は得られない。日本商工会よりベトナム電力会社に窮境を訴えたことがあるが、最終的に解決には至らず、製造業では防衛策としてバックアップ用の電源の設置や、電力安定化装置を導入している企業も多い。

南部地域周辺において、複数の発電所が新設される予定であり、2025年2月にベトナム初のLNG火力発電所が送電網に接続されたほか、日系企業のイーレックス社は2025年5月にベトナム初の商用バイオマス発電所もベトナム南部ハウザン省で稼働し始めた。

（8）ガス

ベトナムには南東部を中心に沖合に大規模な油田があり、海底パイプラインで陸上に輸送されている。すでに発見されているガス資源も多く、長期的な増産を見据え、大型ガス田の開発が期待されている。一方、政府の政策により、ベトナムのガス需要のほとんどが発電用となっている。

2022年3月、ペトロベトナムガスは、同年第4四半期に国内初のLNGターミナルを試験操業すると発表した。南部のバリア・ブントウ州にあるチーバイLNGターミナルは、2023年10月から商業運転を開始しており、隣接するドンナイ省に建設中のガス火力発電所に供給している。同ターミナルは当初、年間100万トンの生産能力を持つが、その後3倍に拡大する予定であり、2025年後半にもEPC契約に署名する準備ができているとのことである。ペトロベトナムガスは、これまでに八つのLNGサプライヤーと売買基本契約を締結しており、ほかのサプライヤーとも交渉中であると述べている。

ホーチミン市内であっても都市ガスは整備されておらず、基本的にはガス供給はプロパンガスとなっている。南部においても日系企業のガス利用は工場では少量で、社員食堂用の利用が大半を占める。燃焼効率の観点から、生産設備のボイラーにはガスではなく石炭火力とバイオマスを併用している企業が多い。

(9) 水道

ホーチミン市では、浄水場の増設、配水管や貯水槽の整備が進められ、2017年1月には上水道の普及率が100%となった。工業団地内に進出している企業からは、上水の質や量に関する懸念は特に聞かれなかった。排水については、工業団地ごとに排出基準が設定されており、2〜3ヵ月に1度の頻度で、環境警察による排水の抜き打ちチェックが実施されている。現在、工場設立にあたり浄化設備の設置は必須とされていないものの、近年、政府が環境問題に対して厳しくなっている状況に鑑み、将来的なリスクも考慮して自主的に浄化設備を取り付けた企業もある。

(10) 通信

ベトナム全土において通信環境は非常に良好であり、現地調査でも、日本よりもインターネットのスピードが速いとの声が多く聞かれた。したがって、企業によってはCADやQRコードを利用するなど、工場内のIT化も進展している。日本のデータセンターなどを利用している日系企業では、光海底ケーブルのベトナムへの支線が断線すると通信速度が大幅に低下するなど障害が生じることがある。なお、ホーチミン市内には無料Wi-Fiが設置されている地点が多いとのことである。

5Gについては、地場Viettelが2019年1月に試験免許を受け、5月にハノイ及びホーチミン市での実験に成功している。Mobifoneが同年4月に試験免許を受けハノイ、ハイフォン、ダナンで5G基地局を設置し試験を実施したほか、VNPT-Vinaphoneが7月に試験免許を受けハノイ、ホーチミン市での基地局設置を進めている。

7. 労働事情

(1) 労働者の確保

ワーカーの募集は、南部においても、北部、中部と同様に、工業団地内や工場前の掲示板への貼り紙、口コミ、インターネットなどで行う企業が多く、新聞広告は効果が薄いと捉える企業も多い。現状、南部において進出企業に優良な労働力として求められるのは、器用で、単純労働にも根気良く長時間従事できるワーカーであり、一般的に女性であることが多い。しかし、求める人材層が集中しているため、南部においても、労働者の確保が難しくなっている。特に都市周辺部での労働力確保が困難になりつつあり、通常、ワーカーは近辺から通勤することが多いが、地方からの出稼ぎ人材を採用する企業も増え始めている。この場合、自治体や工業団地などが寮を用意するケースもあるという。しかし、近年、北部にも工業団地が増加していることから、北部からの出稼ぎ者は減少傾向にあるという。

南部においても、スタッフクラスやマネージャークラスの採用は、ワーカーほど容易ではない。インターネットや人材派遣会社、新聞広告を通じて採用することが主である。特殊な技能については、専門のウェブサイトが存在し、企業間の引き抜きも行われている。派遣会社を利用した場合、1〜2ヵ月の試用期間の後、正社員とすかどうかを決めるが、正社員となった場合は、当該社員の2ヵ月分の給料と同額の報酬を派遣会社に支払うこととなる。南部においては、大卒者の採用は、ほとんどがホーチミン市内での採用であるという。よって、ホーチミン市周辺地域やドンナイ省の工業団地内に立地する日系企業のスタッフ、マネージャー、エンジニアクラスの従業員

員は、ホーチミン市から通勤するケースが多い。

図表 27-4 南部の主要大学

学校名	特徴
カントー大学	農業、水産、経済、工科、環境資源、情報通信、農村開発、理科など。1966 年創立。学生数 44,500 人（学部）、2,500 人（大学院生）
ベトナム国家大学 ホーチミン市校	工科、自然科学、人文社会学、国際、情報工学、経済・法学など。1995 年創立。 学部学生 82,586 人以上 大学院生 7,224 人以上
ホーチミン工科大学	全日制（4 年半）、機械、化学、電気電子、情報、土木工学など 11 学部。1957 年創立。学生数 27,000 人

（出所）国立研究開発法人科学技術振興機構ウェブサイト"<https://spap.jst.go.jp/index.html>"より作成

日本の本社で 3 年間のベトナム人技能実習生を受け入れている企業では、実習生がベトナムに帰国した際に、現地法人などに入社し、将来的に幹部候補生になって欲しいと期待している。日本語と日本人の仕事の仕方を理解しているベトナム人はどの地域でも重宝される。南部においてはカントー大学、ベトナム国家大学、ホーチミン工科大学などが有力校として優秀な人材を輩出している。

（2）労働管理

ベトナムにおいては、企業は労働組合を結成することができ、企業内の労働組合は、上部組織であるベトナム労働総同盟と共産党の管理下にある。労使間で定期的に会合が開かれ、例えば、現地会社のマネジメントと労働組合の対話は四半期に 1 回実施される。議論の中心は賃金水準ではなく、むしろ昼食の値段や質など、就業環境に関する事項であるとのことである。また、工業団地の入居企業の中には、従業員が 1,000 人規模などになると、組合活動を扇動する者が現れることもあるため、組合との良好な関係を築くことが重要となっている。

例えば 2006 年 2 月、複数の日系企業で、賃上げを求める従業員によるストライキが発生した。参加した従業員数は数十社 1 万人以上に達する大規模なストライキとなった。同国における日系企業の大規模ストは初めてであったが、背景には、最低賃金引き上げにより賃金の上位層と下位層の格差が縮まったことに対して、もともと上位の待遇であった従業員から不満が生じたことがあると言われている。2008 年にはインフレ昂進を背景に日系企業を含む大規模なストライキに発展した。

この要因は、ベトナム人ワーカーが情報ネットワークを通じてストライキを他社に波及させたり、外部の扇動者がストライキを増幅させたりしたとも言われる。しかしながら、これらは労使交渉を経ない違法なストライキであり、3 日程度で収束することが多いと言われる。ストライキへの対応については「第 19 章 労働事情」の「8. 労働紛争の解決」を参照されたい。

(3) 雇用契約（残業時間、有給休暇、退職、転職）

ベトナムでの残業代は、通常の残業で1.5倍、休日は2倍で、祝日は3倍となることから、ベトナム人は残業を厭わない傾向にある。有給休暇は、未消化分を買い取る制度もあり、企業によっては年末に未消化分の有給買い取りコストにより一時的に支出が増大するケースも見られる。雇用関係については、短期契約では最長3年で更新は1回のみ可能であり、2回目の更新から終身雇用が適用される。このような解雇が困難な現状の法制度下で、どのように労働者の入れ替えをしていくか、地域を問わず、十分な検討が必要とされる。

南部においても、ワーカー、スタッフクラスともに、少しでも給料の高い企業に転職する傾向が強い。また、日系企業での勤務経験を武器に転職する者も多い。なお、ホーチミンではスタッフクラスへの就職が人気であり、ほかの地域よりもオフィスで働くことを重視する傾向にある。

また、南部では家族への帰属意識が強く、遠隔地からの出稼ぎ者の場合、故郷へ帰りたいがる傾向が強い。テト（旧正月）に故郷に帰郷すると、テト明けにそのまま職場に戻らないことがあるため、企業ではその対策としてテト時に支払う賞与を、テトの前後に分割して支給などの工夫を行っている企業も多い。

また、優秀な従業員に長く在籍してもらえよう待遇面で工夫をしている日系企業も多い。更に、人材供給がタイトになりつつあるため従業員の補充時には、余剰人員になっても良い人材はバックアップ要員として多めに採用する企業もあると聞く。

(4) 労働者の評価

進出日系企業のベトナム人ワーカーに対する評価は概して高い。ベトナム人はまじめで熱心であり、手先が器用で、作業の効率性も高く、使いやすいとの評価が多く、電気関係のトラブルシューティングは大卒レベルの能力を必要とするものの、通常の機械メンテナンスであればワーカーレベルで対応が可能であるとの声が聞かれた。エンジニアにしても、1人ひとりの技術力が高いとの評価であった。

ホーチミンの労働者の特徴としては、南部らしく明るい性格の人が多い一方、気温が高く、果物も豊富なことから、寝食に関して生命の危険に直面するリスクが低いと、計画性やハングリー精神に欠けるとも言われ、かなり上のポストに就いているベトナム人も、比較的簡単に仕事を辞める傾向にある。一方、北部の人の方が南部の人よりも勤勉で教育水準が高いと見る意見は少数であった。

ほかの地域ではベトナム人は「改善や創意工夫が苦手」との声が多かったが、南部地域では、なぜそれが必要なのかを納得させた上で教育を行うことで対処可能との意見も聞かれた。ベトナム人の特性の一つに「話をして欲しい」、「説明して欲しい」といったコミュニケーションを重視する特性があるのに対し、外資系企業はプロセスを伝えることなく、賃下げや解雇などに際しても結果のみを伝達する傾向があり、大規模なストライキを誘発することもある。特に南部においては、結果だけ伝えるのではなく、事前に考え方を詳しく説明する必要がある。

ベトナム人はプライドが高く、人前で実績について高い評価を示されるとモチベーションが高まり、仕事により懸命に打ち込む傾向がある。この性質を活用して、成果を出した労働者には、全員の前で表彰して報酬金などを渡す、反対に、ミスをした場合には反省文を書かせ次年度の給

与を引き下げるなどの成果主義に基づく人事制度を導入している企業もあると聞く。

(5) コミュニケーション

こちらも南部特有ではなく、ベトナム人全般に当てはまることであるが、コミュニケーションの課題として、伝えたことがどこまで理解されているかの確認が難しいことが挙げられる。また、通訳のレベルも高くないことから、ベトナム人従業員がどの程度、命令を理解しているかの確認は容易ではない。更に、現地調査では、ベトナム人は分からないことを分からないとは言わない傾向があるため、出来上がった製品を見てはじめて、彼らが理解していないことに気付くことがあると聞く。

(6) 賃金水準

ベトナムでは毎年最低賃金の引き上げが行われている。経済の発展度合に応じて全国を 4 地域（第 1 地域～第 4 地域）に分類し、それぞれの最低賃金を設定している。

2024 年 7 月には、2022 年 7 月以来、約 2 年半ぶりに改訂があり、平均 6% の引き上げとされている。地域区分は、南部では、ホーチミン市区部に加え、ビンズン地域及びバリア・ブンタウ地域、ドンナイ省の一部が「第 1 地域」に分類されている。

南部では、新入りのワーカーでも最低賃金での採用は困難な状況となっている。従業員が他社に引き抜かれることを防ぐためにも、給与水準を少なくとも他社と同水準とすることが必要とされる。過去の現地調査においては、日系企業では、基本給は最低賃金とするが、住宅・通勤手当など諸手当を上乗せすることで対応していると聞く。また、日系企業は、最低賃金を上回る水準で採用している企業が多いが、最低賃金が更新される度に、ベトナム人従業員より最低賃金の上昇率と同率で給与を上げてほしいと要求されるとの声もあったようである。

8. 消費市場として見た南部

ホーチミン市及びその周辺省には約 1,600 万人が住んでいる。ホーチミン市の 1 人あたり GRDP は 2023 年にすでに 6,500 ドルを超え、ドンナイ省でも 5,000 ドルを超えている。耐久消費材を購入し始める 3,000 ドルの水準を既に大きく上回っている。このように消費意欲の強い南部は、魅力的なマーケットと評価される。

現地では「南の人は新しいもの好きで、北の人は比較的保守的である」と、南北でのベトナム人の気質の違いが表現されるように、ベトナムでは南北で消費に対する姿勢が異なる点に留意する必要がある。例えば 2014 年にベトナムにスターバックスコーヒーが進出した際、ホーチミンでは開店時に大行列ができたが、ハノイではあまり騒がれず静かであったと言われている。

なお、ベトナムでは統計情報が正確ではなく、マーケティングやリサーチのための統計データの取得が困難な国であるため数値に基づいた市場調査がしにくい上、南北で消費動向に違いがあることから、市場調査には十分な留意が必要である。

9. 生活環境

南部に住む日本人からは、ホーチミンは住みやすいとの良い評価が多かった。特に、日本食店が多く食生活が充実している点の評価の声が多かった。一方で、ASEAN 諸国の首都と比較すると、ホーチミンでは公共交通手段などに未だ遅れが目立つとの声が聞かれた。また、治安が良く凶悪犯罪はないものの、スリ、置き引き、ひったくり程度の軽犯罪は頻繁にあるので注意が必要である。

日本人駐在員は、部屋の掃除、クリーニング、リネン交換、光熱費などがサービスに含まれるサービスアパートメントへの居住が中心である。サービスアパートメントの需要増に伴い賃料も上昇しつつあるため、駐在員の生活コストの算出には留意が必要である。多くの日本人は、ホーチミン市1区のレタントン通り周辺や3区に居住していたが、最近では2区や7区の開発が進み高層マンションが多く建設されており、日本人が居住するエリアが広がっている。特に、7区は治安が良く、日本人学校があるため、家族を帯同した駐在員が多く居住している。一方、単身者は1区への渋滞による通勤時間を考慮し、7区を選択する人は多くないようだ。

ビンズン地域の工業団地が多く立地するエリアは、ホーチミン市内から1~1.5時間の場所に位置する。ホーチミン市からの通勤も可能であるが、東急電鉄とBECAMEX社の都市開発によりマンション（ソラ・ガーデンズ、2014年竣工）が建設された後、同エリアに住む日本人が増加している。日本食店、コンビニなどの商業・飲食施設のほか、医療機関やインターナショナルスクール3校の開設など、家族連れでも住みやすい環境となっている。

公共交通機関はバスや鉄道があり、一部東急グループが運営する路線バスも走っている。しかしながら、都市内交通の観点で、ホーチミンはバンコクやシンガポールに劣ると言える。

食事の面では、好みにもよるが、概して日本人には合うという声が多く聞かれた。周辺国の料理と比較すると、ベトナム料理は中華料理よりあっさりしており、タイよりも甘辛くなく、パクチーなどの香草も他国よりも多くないという。また、商業施設の増加により日本食レストランも増加しており、過去の現地調査では「だいたい日本食を食べている」という駐在員を多く見かけた。日本食材は、イオンやファミリーマート、ミニストップなど日系小売店や、日本食材専門店などで入手できる。イオンが提携するCitimartでは、トップバリュの商品が売られている。野菜をはじめとした安心安全な食材や、弁当の宅配サービスも利用可能である。



ホーチミン市内のファミリーマート



日本人好みの料理を提供する
レストランも多い

南部の娯楽は、ゴルフ、プール、テニス、フィットネスクラブ、サッカー、ラグビー、ダイビング、カラオケなど幅広く楽しめる。日本人コミュニティを中心とした各種クラブ活動も盛んである。また、子女向けに遊園地やウォーターパーク、動物園といったアトラクションも多く立地する。ショッピングセンターにも室内遊園地が併設されている。施設面で日本のショッピングセンターに匹敵する水準のショッピングセンターが増加しているが、日本人への訴求力は高くない。その一因として、ベトナムは贅沢品に対する関税及び税金が高率であり、輸入された日本品は手を出しにくい価格設定であることが挙げられる。

南部では、ホーチミンやドンナイ省などにゴルフ場がある。ホーチミン市街地から 1 時間圏内には有名ゴルフ場が 4~5 ヶ所ほど立地している。1 年間などの期間限定のゴルフ会員権が販売され、このようなゴルフ会員権を購入する日本人駐在員も多い。

また、ゴルフ会員権を会社で保有している日系企業もある。ホーチミンには現在、日本人学校、日本人補習校のほか、インターナショナルスクールがある。

病院について、ホーチミンには、日本人医師が常駐し、緊急用にも対応できる病院・クリニックが立地するものの、専門医ではないため、手術はできない。医療全般の水準は、シンガポール、バンコク、マレーシアよりも低いとの評価である。更に、過去の現地調査で現地駐在員からはホーチミンには日本の大学病院クラスの施設がなく、MRI といった高額機器はあるものの、それらの機器を使って症状を判断できる医師がいないなど、現地の医療体制を不安視する意見が寄せられた。現在、日本政府がベトナムに対して医療支援を実施しており、現地における医療サービスの改善が期待される。なお、ビンズン地域では、都市部の病院で受診する必要がある。ちょっとした手術や虫歯の治療も、問題が耳に入ってくるため、日本に帰って対応しているという声があった。

図表 27-5 ホーチミン市の学校

学校名、URL	場所	対象
ホーチミン日本人学校 (The Japanese School in Ho Chi Minh City) URL : https://jschoolhcmc.com/	Saigon South, Block M9, Tan Phu Ward, District 7	小学生 中学生
ホーチミン日本人補習校 (Ho Chi Minh city Japanese Supplementary School) URL : https://jss-hcmc.asia/	Block M9, TAN PHU WARD, DIST7	小学生 中学生
サイゴン・サウス・インターナショナル・スクール (Saigon South International School) URL : https://www.ssis.edu.vn/	78 Nguyen Duc Canh Tan Phong Ward, District 7	小学生から高校生
インターナショナル・スクール・ホーチミンシティ (International School, Ho Chi Minh City) URL : https://www.ishcmc.com/	(Primary Campus) 28 Vo Truong Toan Street, An Phu Ward, District 2 (Secondary School Campus) 01 Xuan Thuy Street, Thao Dien Ward, Thu Duc City (District 2), HCMC	2～18 歳
オーストラリアン・インターナショナル・スクール (Australian International School (AIS)) URL : https://www.aisvietnam.com/	Thao Dien Campus (Kindergarten & Primary School):36 Thao Dien Street, District 2 Thu Thiem Campus (Kindergarten, Primary, Middle & Senior School):264 Mai Chi Tho (East-West Highway), An Phu Ward, District 2	1.5 ～ 18 歳
ブリティッシュ・インターナショナル・スクール (British International School (BIS)) URL : https://www.nordangliaeducation.com/our-schools/vietnam/ho-chi-minh-city/bis	(Early Years & Infant Campus) 101 Thao Dien Thu Duc City (Junior Campus) 225 Nguyen Van Huong Thu Duc City (Secondary Campus) 246 Nguyen Van Huong Thu Duc City	2～18 歳
ルネッサンスインターナショナルスクールサイゴン (Renaissance International School Saigon) URL : https://www.renaissance.edu.vn/	74 Nguyen Thi Thap Street, Binh Thuan Ward, District 7	2～18 歳
シンガポールインターナショナルスクール (Singapore International School (SIS)) URL : https://bdnewcity.sis.edu.vn/	Lot F7, Le Loi Street, Binh Duong New City, Hoa Phu Ward, Thu Dau Mot City, Binh Duong Province	1～12 歳

(出所) 各校ウェブサイトより作成 (閲覧日 2025 年 5 月 19 日)

図表 27-6 南部の主な医療機関

病院名、URL	診療科目	住所	電話番号
Family Medical Practice, Ho Chi Minh City (ファミリー メディカル プラクティス ホーチミンシティ) https://www.vietnammedicalpractice.com/hcmc/en 日本人医師 3 名、日本人スタッフ 5 名	総合診療科、内科、小児科、整形外科・外科、皮膚科、婦人科、耳鼻咽喉科、理学療法など	1 区：Diamond Plaza 34 Le Duan Street, District 1, HCMC 2 区：95 Thao Dien Street, District 2, HCMC 7 区：41 Dang Duc Thuat, Tan Phong, District 7, HCMC	028-3822-7848 (24 時間対応) 緊急アシスタンス & 救急車サービス：*9999 (24 時間対応) 日本語直通：028-3822-1919
Raffles Medical Ho Chi Minh (ラッフルズ メディカル ホーチミン) https://rafflesmedical.vn/ja/raffles-medical-ho-chi-minh-city/ 日本人医師 1 名、日本人看護師 (日本の看護師資格保有) 1 名 + 日本人カスタマーサポートスタッフ 2 名	総合診療科、小児科、産婦人科、皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科、外科、整形外科、泌尿器科、放射線科、精神科、呼吸器科、消化器科、歯科、整体、心理カウンセリングなど	167A Nam Ky Khoi Nghia Street, District 3, HCMC	028-3824-0777 (24 時間対応) * 救急外来は 24 時間体制。救急車の依頼も可能 (有料)
Lotus Clinic (ロータス クリニック) https://lotus-clinic.com/clinic 日本人医師 2 名、日本人看護師 (日本の看護師資格) 2 名、日本人スタッフ 1 名。ベトナム人スタッフは全員日本語で対応可能。	総合診療科 (プライマリーケア)	22-22 Bis Le Thanh Ton Street, Ben Nghe Ward, District 1, HCMC	028-3827-0000
Franco-Vietnamese Hospital (フランコ ベトナムーズ ホスピタル) https://www.fvhospital.com/	総合診療科、内科、外科、小児科、産婦人科、整形外科、皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科、泌尿器科、口腔外科、歯科、放射線治療など。	6 Nguyen Luong Bang Street, Tan Phu Ward, District 7, HCMC	028-5411-3333 (日本語：内線 1183) 日本語直通：096-262-7803 (24 時間救急 028-5411-3500)

(出所) 外務省「世界の医療事情 ベトナム」<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/asia/viet.html> などより作成 (最終更新日 2024 年 10 月 1 日、閲覧日 2025 年 5 月 19 日)

ひとくちメモ 22： 南部物流についてのまとめ

南部の物流は改善しつつある。北部、中部と比較してもその整備水準は高いものの、鉄道の利便性の低さ、港湾処理能力がひっ迫し、物流コストも高騰するなど、改善が期待される点は多々ある。特に物流コストは、ほかの東南アジア諸国と比較すると、港から港への輸送コストは特別高くはないが、工場から港までの陸路の輸送コストが高いことが分かる。また、警察、トラック車両事故、トールフィー（通行料金）など、やや不透明な物流コストが発生することも問題視されている。また、南部はすでに進出企業も多く、それ故に都市部では交通渋滞が深刻化していることには留意が必要である。

現在、日本の ODA を含む資金を活用して、ベトナム全土で道路整備が進められている。しかし、用地収用が進まず、計画が大幅に遅れているケースが散見される。ベトナムでは強権的な土地収用は実施されず、「民主的」な用地の確保が行われるため、道路建設をはじめとする大規模なインフラプロジェクトには時間がかかると言われる。

10. 主要工業団地

南部の主要な工業団地の概要を省ごとにまとめると、以下となる。

ドンナイ省			
No.	工業団地名	所在地	総開発面積 (ha)
1	アグテックス・ロンビン(AGTEX Long Binh)工業団地	Long Binh Ward, Bien Hoa City, Dong Nai Province	50
2	アマタシティ・ビエンホア(Amata City Bien Hoa)工業団地	Long Binh Ward, Bien Hoa City, Dong Nai Province	700
3	アマタシティ・ロンタイン(Amata City Long Thanh)工業団地	Dong Nai Province, Long Thanh District	410
4	アンフオック(An Phuoc)工業団地	An Phuoc Commune, Long Thanh District, Dong Nai Province	201
5	パウセオ(Bau Xeo)工業団地	Song Trau Commune, Trang Bom Dist., Dong Nai Province	500
6	ビエンホア 1(Bien Hoa 1)工業団地	An Binh Ward, Bien Hoa city, Dong Nai province	335
7	ビエンホア 2(Bien Hoa 2)工業団地	Long Binh Tan & An Binh Ward, Bien Hoa city, Dong Nai	331
8	ブーステッド工業団地(Boustead Industrial Park)	Street No.3, Nhơn Trạch II Industrial Park, Nhơn Trạch, Đồng Nai	19
9	ザウザイ(Dau Giay)工業団地	Bau Ham Commune & Xuan Thanh Commune, Thong Nhat District, Dong Nai Province	365
10	ニョンチャック・テキスタイル・ガーメント(Det may Nhon Trach)工業団地	Khu Cong Nghiep Det May Nhon Trach, Duong 319B, xa Hiep Phuoc, Huyen Nhon Trach, Tinh Dong Nai	n/a
11	ディンクアン(Dinh Quan)工業団地	La Nga Commune, Dinh Quan District, Dong Nai Province	54
12	ザンディエン(Giang Dien)工業団地	Xa Giang Dien, An Vien Huyen Trang Bom va Xa Tam Phuoc Tinh Dong Nai	529
13	ゴーザウ(Go Dau)工業団地	Phuoc Thai commune, Long Thanh district, Dong Nai	182
14	ホーナイ(Ho Nai)工業団地	Son Ho Nai 3, Trang Bom District, Dong Nai Province	第 1 期:226 第 2 期:270
15	ロックアン・ビンソン(Loc An Binh Son)工業団地	Xa Loc An, Long An & Binh Son, H. Long Thanh, Bien Hoa, Dong Nai	498
16	ロンドゥック(Long Duc)工業団地	Long Duc Industrial Park, Long Duc Ward, Long Thanh District, Dong Nai Province	270
17	ロンカイン(Long Khanh)工業団地	Suoi Tre Commune, Long Khanh Township, Dong Nai Province	281
18	ロテコ(LOTECO) / ロン・ビン(Long Binh)工業団地	Route 15A Long Binh Ward, Bien Hoa city, Dong Nai province	100
19	ロンタイン(Long Thanh)工業団地	Xã Tam An, Huyện Long Thành, Tỉnh Đồng Nai	488
20	ニョンチャック 1(Nhon Trach 1)工業団地	Phu Hoi, Phuoc Thien and Hiep Phuoc Communes, Nhon Trach Dist., Dong Nai Province	447
21	ニョンチャック 2(Nhon Trach 2)工業団地	25 Hoang Hoa Tham, Phuong 6, Quan Binh Thanh, Tp. Ho Chi Minh	183

ドンナイ省			
No.	工業団地名	所在地	総開発面積 (ha)
22	ニョンチャック 2-ロックカン(Nhon Trach 2 - Loc Khang)工業団地	xa Hiep Phuoc & Phu Hoi, huyen Nhon Trach,	70
23	ニョンチャック 2-ニョンフー(Nhon Trach 2 - Nhon Phu)工業団地	25 Hoang Hoa Tham, Phuong 6, Quan Binh Thanh, Tp. Ho Chi Minh	183
24	ニョンチャック 3(Nhon Trach 3)工業団地	Long Tan and Hiep Phuoc Commune, Nhon Trach District, Dong Nai	第 1 期: 337 第 2 期: 360
25	ニョンチャック 5(Nhon Trach 5)工業団地	Long Tho Commune, Nhon Trach District, Dong Nai Province	309
26	ニョンチャック 6(Nhon Trach 6)工業団地	Nhon Trach District, Dong Nai Province	314
27	オンケオ(Ong Keo)工業団地	Phuoc Khanh Commune, Nhon Trach District, Dong Nai Province	855
28	ソンマイ(Song May)工業団地	Bac Son Commune, Trang Bom District, Dong Nai Province	474
29	スオイチェー(Suoi Tre)工業団地	Suoi Tre and Bao Vinh commune, Long Khanh town, Dong Nai province	150
30	タムフオック(Tam Phuoc)工業団地	Raod no 6, Tam Phuoc Village,Bien Hoa City, Dong Nai Province	323
31	タンフー(Tan Phu)工業団地	Tan Phu Town, Tan Phu Dist., Dong Nai Province	49
32	タインフー(Thanh Phu)工業団地	Thanh Phu Commune, Vinh Cuu Dist., Dong Nai Province	177
33	スアンロック(Xuan Loc)工業団地	Xuan Tam & Xuan Hiep commune, Xuan Loc district, Dong Nai province	108
34	BECAMEX ビンフオック(Binh Phuoc)工業団地	Chon Thanh Town, Binh Phuoc Province	2,448

ホーチミン市			
No.	工業団地名	所在地	総開発面積 (ha)
1	アンハ(An Ha)工業団地	Pham Van Hai commune, Binh Chanh district, Ho Chi Minh city	124
2	ビンチエウ(Binh Chieu)工業団地	Binh Chieu Ward, Thu Duc Dist., HCMC	27
3	カットライ 2 (Cat Lai 2)工業団地	No. 936 Nguyen Thi Dinh St., Thanh My Loi Ward, Dist. 2, HCMC	137
4	コーキー・オート(Co Khi Oto)機械・自動車工業団地	Tinh lộ 8, xã Hoà Phú, xã Tân Thạnh Đông, huyện Củ Chi, TP.HCM.	99
5	ドンナム(Dong Nam)工業団地	Hoa Phu and Binh My Communes, Cu Chi Dist., HCMC	342
6	ヒエップフオック(Hiep Phuoc)工業団地	Division B, Road No.1, Hiep Phuoc Industrial Park, Hiep Phuoc Commune , Nha Be District, HCMC	2,000
7	レミンスアン(Le Minh Xuan)工業団地	Tan Nhut & Le Minh Xuan Communes, Binh Chanh Dist., HCMC	100
8	レミンスアン 3(Le Minh Xuan 3)工業団地	Binh Chanh District, HCMC	311
9	リンチュン 1(Linh Trung 1)輸出加工区	Linh Trung Ward, Thu Duc District, Ho Chi Minh City	62

ホーチミン市			
No.	工業団地名	所在地	総開発面積 (ha)
10	リンチュン 2(Linh Trung 2)輸出加工区	Binh Chieu Ward, Thu Duc District, Hochiminh City	62
11	クアンチュン・ソフトウェアシティ(Quang Trung Software City)	Hall 3, Quang Trung Software City, Tan Chanh Hiep Ward, District 12, Ho Chi Minh City	43
12	サイゴン・ハイテク・パーク(Saigon Hi-Tech Park)	"D1, Saigon Hi-Tech Park Tan Phu Ward, District 9, Hochiminh City"	913
13	タンビン(Tan Binh)工業団地	108 Tay Thanh, Ward 15, Tan Binh Dist., HCMC	129
14	タンフーチュン(Tan Phu Trung)工業団地	Highway 22, Tram Bom hamlet, Tan Phu Trung Commune, Cu Chi District, HCMC	543
15	タントオ(Tan Tao)工業団地	Tan Tao Industrial Park, Tan Tao A Ward, Binh Tan District, Ho Chi Minh City	392
16	タントイヒエップ(Tan Thoi Hiep)工業団地	No 27/40B, National Road 80, Tan Chanh Hiep Ward, Dist. 12, HCMC	215
17	タントゥアン(Tan Thuan)輸出加工区	KCX Tan Thuan, Phuong Tan Thuan Dong, Quan 7, Tp. Ho Chi Minh, Viet Nam	300
18	タイバック・クチ(Tay Bac Cu Chi) 工業団地	National Road 22, Cu Chi Dist., HCMC	150
19	ビンロック(Vinh Loc)工業団地	Lo A59/I duong so 7, KCN Vinh Loc, phuong Binh Hung Hoa Commune, District Binh Tan, Tp.HCM	207
20	ホーチミン市自動車製造工業団地(Ho Chi Minh City's Automotive Manufacturing Industrial Park)	194, Huang Mingmin, Hoa Phu Commune, Cu Chi District, Ho Chi Minh City	99
21	パウバン(Bau Bang)工業団地 / ミーフオック 5(My Phuoc 5)工業団地	Lai Hung and Lai Uyen Ward of Ben Cat District- Binh Duong Province	2,000
22	ビンアン・テキスタイル・ガーメント (Det May Binh An) 工業団地	Xa Binh Thang, thi xa Di An, tinh Binh Duong	26
23	ビンドゥオン(Binh Duong)工業団地	An Binh Commune, Di An District, Binh Duong Province	17
24	ダーデン(Da Den) / ダイダン(Dai Dang)工業団地	Thu Dau Mot Township, Binh Duong Province	274
25	ダットクオック(Dat Cuoc)工業団地	Xa Dat Cuoc, huyen Tan Uyen, tinh Binh Duong	213
26	ドンアン 1(Dong An 1)工業団地	KCN Dong An, phuong Binh Hoa, thi xa Thuan An, tinh Binh Duong	140
27	ドンアン 2(Dong An 2)工業団地	KCN Dong An II, P. Hoa Phu, T.P Thu Dau Mot, tinh Binh Duong	235
28	キムファイ(Kim Huy)工業団地	Phuong Phu Tan-Thi xa Thu Dau Mot- Tinh Binh Duong	216
29	マイチュン(Mai Trung)工業団地	An Tay Commune, Ben Cat District, Binh Duong.	51
30	ミーフオック(My Phuoc)工業団地 1～3	H. Ben Cat - Binh Duong	4,200
31	ナム・タンウエン(Nam Tan Uyen)工業団地	Khanh Binh commune, Tan Uyen district, Binh Duong province	332
32	フーザー(Phu Gia)工業団地	xa Hoa Loi, huyen Ben Cat, tinh Binh Duong	33

ホーチミン市			
No.	工業団地名	所在地	総開発面積 (ha)
33	プロトレード・インターナショナル・テックパーク (Protrade International Tech Park)	Xã An Tây, Thị xã Bến Cát, Tỉnh Bình Dương	n/a
34	ラックバップーアンディエン(Rach Bap - An Dien)工業団地	An Dien – An Tay Communes, Ben Cat Dist., Binh Duong Province	279
35	ソントアン 1(Song Than 1)工業団地	63 Yersin, phường Hiep Thanh, thị xã Thu Dau Mot, tỉnh Bình Dương	178
36	ソントアン 2(Song Than 2)工業団地	Thị trấn Di An và xã Tân Đông Hiệp, thị xã Di An, tỉnh Bình Dương	279
37	ソントアン 3(Song Than 3)工業団地	Thị trấn Di An và xã Tân Đông Hiệp, thị xã Di An, tỉnh Bình Dương	534
38	タンビン(Tan Binh)工業団地	Xã Tân Bình, Huyện Bắc Tân Uyên, Tỉnh Bình Dương	352
39	タンドンヒエプ B(Tan Dong Hiep B)工業団地	Tan Dong Hiep Commune, Di An District, Binh Duong Province	164
40	トイホア(Thoi Hoa)/ミーフオック 4(My Phuoc4)工業団地	Thoi Hoa Commune, Ben Cat District, Binh Duong Province	202
41	ビエットフオン 1(Viet Huong 1)工業団地	Phuong Thuan Giao, Thị xã Thuận An, tỉnh Bình Dương	46
42	ビエットフオン 2(Viet Huong 2)工業団地	An Tay Commune, Ben Cat District, Binh Duong Province	250
43	ベトナム・シンガポール工業団地 1(VSIP-1)	8 Huu Nghi Boulevard, VSIP, Thuận An, Binh Duong province	500
44	ベトナム・シンガポール工業団地 2(VSIP-2)	8 Huu Nghi Boulevard, VSIP, Thuận An, Binh Duong province	2045
45	ベトナム・シンガポール工業団地 3(VSIP-3)	8 Dai Lo Huu Nghi, VSIP, Thuận An, Binh Duong, Vietnam	1,000
46	カイチューン(Cay Truong)工業団地・バウバン(Bau Bang)工業団地拡張	WTC Tower, Thu Dau Mot City, Binh Duong Province	1,080
47	カイメップ(Cai Mep)工業団地	Phuoc Hoa Town, Tân Thành Dist., Bà Rịa – Vũng Tàu Province	670
48	チャウドウック(Chau Duc)都市工業団地	Xã Nghĩa Thành, Xã Suối Nghe, Huyện Châu Đức, Tỉnh Bà Rịa - Vũng Tàu	2,287
49	ダー・バック(Da Bac)工業団地	Bàu Disn, Da Bac, Châu Đức, Bà Rịa-Vũng Tàu	295
50	ダットドー1(Dat Do 1)工業団地	Xã Phước Long Thọ, Huyện Đất Đỏ, Tỉnh Bà Rịa - Vũng Tàu	496
51	ドンズエン(Dong Xuyen)工業団地	Phường Rach Dua, Thành phố Vũng Tàu	168
52	ミースアン A(My Xuan A)工業団地	Tân Thành Dist., Bà Rịa – Vũng Tàu Province	304
53	ミースアン A2(My Xuan A2)工業団地	My Xuan Commune, Tân Thành Dist., Bà Rịa – Vũng Tàu Province	422
54	ミースアン B1-コナック(My Xuan B1 - CONAC)工業団地	Tân Thành Dist., Bà Rịa – Vũng Tàu Province	212
55	ミースアン B1-ダイズオン(My Xuan B1 - Dai Duong)工業団地	My Xuan Commune, Tân Thành Dist., Bà Rịa – Vũng Tàu Province	146
56	ミースアン B1-ティエンフン(My Xuan B1 - Tien Hung)工業団地	My Xuan Commune, Tân Thành Dist., Bà Rịa – Vũng Tàu Province	200
57	フーミー1(Phu My 1)工業団地	Thị trấn Phú Mỹ, Huyện Tân Thành, Tỉnh Bà Rịa - Vũng Tàu	951
58	フーミー2(Phu My 2)工業団地	Phu Mỹ Town, Tân Thành Dist., Bà Rịa – Vũng Tàu Province	620

ホーチミン市			
No.	工業団地名	所在地	総開発面積 (ha)
59	フーミー2 拡張(Phu My 2 Mo Rong)工業団地	Phu My Town, Tan Thanh Dist., Ba Ria – Vung Tau Province	400
60	フーミー3 特別工業団地(Phu My 3 Specialized IP)	Phuoc Hoa Commune, Tan Thanh District, Ba Ria – Vung Tau Province	1,046

タイニン省			
No.	工業団地名	所在地	総開発面積 (ha)
1	カウカン・フオックドン(Cau Cang Phuoc Dong)工業団地	Ap 5, duong tinh 826B, xa Phuoc Dong, huyen can Duoc, tinh Long An	129
2	カウチャム(Cau Tram)工業団地	Cau Tram Hamlet, Long Trach Ward, Can Duoc Dist., Long An	98
3	ディエヌエヌ・タンフー (DNN Tan Phu)工業団地	Tan Phu commune, Duc Hoa district, Long An province	262
4	ドンナムアー (Dong Nam A) 工業団地	Tan Tap and Phuoc Vinh Dong commune, Can Giuoc district, Long An Province	396
5	ドゥックホア 1-ハインフック(Duc Hoa 1- Hanh Phuoc)工業団地	hamlet 5, Duc Hoa Dong commune, Duc Hoa district, Long An province	255
6	ドゥックホア 3-アインホン(Duc Hoa 3 - Anh Hong)工業団地	Ap Duc Hanh 2, xa Duc Lap Ha, huyen Duc Hoa, tinh Long An	45
7	ドゥックホア 3-レスコ(Duc Hoa 3 - RESCO)工業団地	Xa My Hanh Bac, huyen Duc Hoa, tinh Long An	296
8	ドゥックホア 3-スリコ(Duc Hoa 3 - Slico)工業団地	Xã Đức Lập Hạ, Huyện Đức Hòa, Tỉnh Long An	157
9	ドゥックホア 3-タン・ア・ダイ・タン(Duc Hoa 3 - Tan Dai Thanh)工業団地	Xã Đức Lập Hạ, huyện Đức Hòa, tỉnh Long An	n/a
10	ドゥックホア 3-ビエットホア(Duc Hoa 3 - Viet Hoa)工業団地	Xa Duc Lap Ha, huen Duc Hoa, tinh Long An	832
11	ハイソン(Hai Son)工業団地	Ấp Bình Tiền 2 – Xã Đức Hòa Hạ - Huyện Đức Hòa – Tỉnh Long An	443
12	ヒュー・ティアン (Huu Thanh) 工業団地	Thị trấn Phú Mỹ - H. Tân Thành - T. Bà Rịa - Vũng Tàu.	524
13	ロンハウ(Long Hau)工業団地	Long Hau Commune, Can Giuoc District, Long An Province	373
14	ロン・ハウ 3 (Long Hau 3)工業団地	n/a	n/a
15	ロンハウ・ホアビン(Long Hau Hoa Binh)工業団地	Nga 3 Binh Anh, Quoc Lo 1A, Huyen Thu Thua, Tinh Long An	125
16	ナムテウアン (Nam Thuan) 工業団地	xã Đức Hòa Đông, huyện Đức Hòa, tỉnh Long An	300
17	ニユットチャイン(Nhut Chanh)工業団地	Hamlet 5, Nhut Chanh commune, Ben Luc district, Long An province	123
18	フーアンタン(Phu An Thanh)工業団地	Tinh Lo 830, Xa An Thanh, Huyen Ben Luc, Tinh Long An	307
19	フックロン(Phuc Long)工業団地	400, highway 1A, Area 9, Ben Luc Townlet, Ben Luc district, Long An province, Viet Nam	79
20	タンドー(Tan Do)工業団地	Lo A1, duong so 1, KCN Tan Do, xa Duc Hoa Ha, Huyen Duc Hoa, Tinh Long An	n/a

タイニン省			
No.	工業団地名	所在地	総開発面積 (ha)
21	タンドウック(Tan Duc)工業団地	Duc Hoa Ha Commune, Duc Hoa Dist., Long An Province	275
22	タンキム(Tan Kim)工業団地	Tan Kim commune, Can Giuoc district, Long An Province	104
23	タイホア(Thai Hoa)工業団地	Tan Hoa Hamlet, Duc Lap Ha Commune, Duc Hoa Dist., Long An Province	100
24	ティンファット(Thinh Phat)工業団地	tinh lo 830, ap 3 xa Luong Binh, huyen Ben Luc, tinh Long An	200
25	トゥアンダオ(Thuan Dao)工業団地	Khu Cong Nghiep Thuan Dao, thi tran Ben Luc, huyen Ben Luc, tinh Long An	765
26	テウーテウア (Thu Thua) 工業団地	Thị trấn Thủ Thừa, huyện Thủ Thừa, tỉnh Long An	189
27	ベトファット (Viet Phat) 工業団地	Quốc lộ N2, Tân Long, Thủ Thừa, Long An	1,214
28	ビンロック-ベンルック(Vinh Loc - Ben Luc) 工業団地	National Highway No. 01, Voi La Village, Long Hiep Commune, Ben Luc District, Long An Province	226
29	スアン A(Xuyen A)工業団地	Provincial Road No. 824, My Hanh Bac Commune, Duc Hoa District, Long An Province	306
30	プロデジエコ(Prodezi Eco)工業団地	Ben Luc District, Long An Province	400
31	リンチュン 3 (Linh Trung 3)輸出加工区	Depth Street, Trang Bang Town, Tay Ninh Province	201
32	フオックドン・ボイロイ(Phuoc Dong - Boi Loi)工業団地	Go Dau District, Tay Ninh Province	2,436